

新型コロナウイルス感染の子どもにおける特徴と症状

※現在の疫学情報、数少ない報告や過去のコロナウイルス感染症を踏まえた症状

〈特徴〉

- 感染者数は大人と比べ少ないが、感染のしやすさは大人と変わらない。
- 家庭内で感染している例が多い。

〈症状〉

- 子どもは感染しても症状がでない、あるいは症状が軽いことが多い。
- 発熱、乾いた咳は多い。鼻水や鼻づまりなどの症状は比較的少ない。
- 大人と比べると割合は低いが、重症化することがある。

受診のめやす

こんな時は速やかに医療機関を受診しよう

- 原因不明の熱が続く
- 呼吸が苦しい（呼吸数が多い、肩で息をする）
- 水分がとれない
- ぐったりしている（唇や顔の色が悪い）



子どもの場合は正確に症状を訴えることができないため、全身状態をよく観察し、かかりつけの医療機関に電話などで相談してから受診しましょう。ぜんそくなどの生まれつきの基礎疾患を持っているお子さんは、普通の風邪でも症状が重くなる傾向があり、新型コロナウイルスでも同様の可能性があります。ただし、基礎疾患ごとにリスクや対応は異なりますので、不安な点はかかりつけ医にご相談ください。

子どもの感染症予防

★手洗い・手指消毒をしよう。

子どもの患者さんの多くは家庭内で感染しているので、まずはご家族の感染予防が大切です。また、ウイルスに汚染されたおもちゃや本などに触れた手で、口や鼻、目を触ることで感染するので、手洗いや消毒が重要です。
手洗い時間の目安：30秒程度



★3つの「密」を避けよう。

集団感染を防ぐため、「密閉空間」、「密集場所」、「密接場面」の3つの条件が同時に重なった環境を避けましょう。

換気は、こまめに、2方向の窓を同時に開けて行いましょう。エアコン使用時も換気が必要です。

★抵抗力を高めよう

抵抗力を高めるため、「十分な睡眠」、「適度な運動」、「バランスの取れた食事」、「規則正しい生活リズム」を心がけよう。

最新の情報を信頼できる情報源から・・・

新しい感染症のため、情報は随時変わっていく可能性があります。また、不安からデマや不確かな情報に振り回されることも少なくありません。感染症に関する情報は、下記ウェブサイトを参考にしてください。

参考となるウェブサイト

- ・厚生労働省「新型コロナウイルス感染症について」
- ・静岡県公式ホームページ「新型コロナウイルス感染症について」
- ・吉田町公式ホームページ「新型コロナウイルス感染症について」
- ・日本小児科学会ホームページ「新型コロナウイルス感染症に関するQ&A」

新型コロナウイルス感染症に関するQ&A

Q1. 子どももマスクをしたほうがいいですか？

A: こどものマスクの着用は注意が必要です。

乳児の呼吸器の空気の通り道は狭いので、マスクをつけることで、呼吸をしにくくさせ呼吸や心臓の負担になったり、顔や唇の色の変化など、体調の異変への気づきが遅れることが心配されます。2歳未満の子どもにマスクを使用するのはやめましょう。

また、子どもは体温調節が上手にできないため、熱中症になりやすいので、気温・湿度の高い中や激しい運動の際には、2歳以上の子どもであっても、マスクの着用は注意が必要です。屋外で人と十分な距離（2m以上）をとれる場合は、マスクをはずしましょう。

Q2. 子どもは外出や友達と遊ぶことは避けたほうがよいですか？

A: 新型コロナウイルス感染症のことで、不安や心配に思うこともあるかもしれませんが、子どもにとって「遊ぶこと」は、心身の発達においてとても重要ですので、以下の点に注意しながら遊びをすすめましょう。

〈屋外における遊びの注意点〉

- 風邪症状（のどの痛み、咳、発熱など）があるときは、外出を控える。
- みんながよく触れる場所に触った後や飲食の前に手洗いをする。

〈屋内における遊びの注意点〉

- 周囲に明らかな感染者がおらず、少人数である。
- 遊ぶ場所に高齢者や基礎疾患のある方がいない。
- 本人や家族に風邪症状（のどの痛み、咳、発熱など）がない。
- みんながよく触れる場所に触った後や飲食の前に手洗いをする。

Q3. 予防接種を遅らせたほうがいいですか？

A: 予防接種は感染症にかかる前に接種することが極めて重要です。

予防接種は、感染しやすい年齢を考慮して感染症ごとに接種年齢が定められています。病院受診を控えたいと予防接種の延期を希望される方もいますが、予防接種で予防できる他の感染症にかかるリスクが高くなってしまいますので、延期はせず、かかりつけ医に相談し、必要な時期に接種をするようにしましょう。



予防接種や病院受診の際に気を付けるポイント

- 子どもや付き添いの保護者の方に、発熱や咳などの症状がないことを確認
- 付き添いの方は、手洗いや手指消毒を行い、マスクを着用
- きょうだいや祖父母などの同伴を避ける
- できる限り、医療機関でおむつを替えないことを心がける（新型コロナウイルスは糞便中に排泄される可能性が指摘されているため）

感染症は差別が広がるきっかけになります。感染者やその家族、子どもたちへの差別が生まれないように身近な大人が相手の立場を思いやり、穏やかな言動を心がけることで、子どもたちの豊かな心を育てていきましょう。

妊娠期から子育て期にわたる様々な相談に、保健師、助産師、管理栄養士が応じます。不安や心配事などお気軽にご相談ください。



問合わせ先：吉田町健康づくり課（保健センター）

☎ (0548) 32-7000